

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成27年2月5日(2015.2.5)

【公開番号】特開2013-146336(P2013-146336A)

【公開日】平成25年8月1日(2013.8.1)

【年通号数】公開・登録公報2013-041

【出願番号】特願2012-7973(P2012-7973)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【FI】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成26年12月16日(2014.12.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技盤に設けられ、遊技球が入球可能な外れ状態および当該外れ状態に比べて入球容易な当り状態相互間または遊技球が入球不能な外れ状態および入球可能な当り状態相互間で切換えられる始動口と、

前記遊技盤に設けられ、遊技球が入球不能な閉鎖状態および入球可能な開放状態相互間で切換えられる特別入球口と、

前記始動口を外れ状態および当り状態相互間で切換えるものであって、サポートモードのオン状態ではオフ状態に比べて多数個の遊技球が前記始動口に入球可能となるように前記始動口の状態を制御する始動口制御手段と、

遊技球が前記始動口に入球した場合に前記特別入球口を開放状態とする大当りであるか否かを判定する大当り判定手段と、

遊技球が前記始動口に入球した場合にサポートモードをオフ状態に設定するか否かを判定する転落判定手段と、

複数の図柄要素のそれぞれを変動状態および変動停止状態で順に表示する図柄遊技の映像が表示されるものであって、複数の図柄要素が変動停止状態で予め決められた大当りの組合せおよび大当りの組合せと異なる外れの組合せのいずれかとなる表示器と、

前記表示器に図柄遊技の映像を表示するものであって、大当りと判定された場合には図柄遊技の映像で複数の図柄要素を大当りの組合せとすると共に外れと判定された場合には図柄遊技の映像で複数の図柄要素を外れの組合せとする図柄遊技手段と、

大当りと判定された場合に図柄遊技の映像が表示停止された後に前記特別入球口を開放状態とする大当り遊技を開始する大当り遊技手段と、

サポートモードをオフ状態に設定するサポートモードオフ手段を備え、

前記図柄遊技手段は、

サポートモードのオン状態で大当りと判定された場合には大当りと判定されたかサポートモードをオフ状態に設定すると判定されたかを遊技者に報知するための特定の演出内容で図柄遊技の映像を演出し、

サポートモードをオフ状態に設定すると判定された場合にも前記特定の演出内容で図柄遊技の映像を演出し、

前記サポートモードオフ手段は、

サポートモードのオン状態で大当たりと判定された場合には図柄遊技の映像が表示開始される前から表示停止された後までの間の大当たり遊技が開始されていない予め決められたタイミングでサポートモードをオフ状態に設定し、

サポートモードのオン状態でサポートモードをオフ状態に設定すると判定された場合には大当たりと判定された場合と同一のタイミングでサポートモードをオフ状態に設定することを特徴とするパチンコ遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明のパチンコ遊技機は次の〔1〕始動口～〔9〕サポートモードオフ手段を備えたものである。

〔1〕始動口は遊技盤に設けられたものであり、遊技球が入球可能な外れ状態および外れ状態に比べて入球容易な当り状態相互間または遊技球が入球不能な外れ状態および入球可能な当り状態相互間で切換えられる。図2の符号16は遊技盤に相当し、図2の特別図柄始動口25は始動口に相当する。この特別図柄始動口25の縮小状態は外れ状態に相当し、拡大状態は当り状態に相当する。

〔2〕特別入球口は遊技盤に設けられたものであり、遊技球が入球不能な閉鎖状態および入球可能な開放状態相互間で切換えられる。図2の特別入賞口31は特別入球口に相当する。

〔3〕始動口制御手段は始動口を外れ状態および当り状態相互間で切換えるものであり、サポートモードのオン状態ではオフ状態に比べて多数個の遊技球が始動口に入球可能となるように始動口の状態を制御する。図5のステップS14は始動口制御手段に相当し、電チューサポートモードはサポートモードに相当する。

〔4〕大当たり判定手段は遊技球が始動口に入球した場合に特別入球口を開放状態とする大当たりであるか否かを判定するものである。図15のステップS121は大当たり判定手段に相当する。

〔5〕転落判定手段は遊技球が始動口に入球した場合にサポートモードをオフ状態に設定するか否かを判定するものであり、図15のステップS114は転落判定手段に相当する。

〔6〕表示器は複数の図柄要素のそれぞれを変動状態および変動停止状態で順に表示する図柄遊技の映像が表示されるものであり、複数の図柄要素が変動停止状態で予め決められた大当たりの組合せおよび大当たりの組合せと異なる外れの組合せのいずれかとなる。図2の装飾図柄表示器40は表示器に相当し、図29の装飾図柄遊技の映像は図柄遊技の映像に相当する。

〔7〕図柄遊技手段は表示器に図柄遊技の映像を表示するものであり、大当たりと判定された場合には図柄遊技の映像で複数の図柄要素を大当たりの組合せとすると共に外れと判定された場合には図柄遊技の映像で複数の図柄要素を外れの組合せとする。この図柄遊技手段はサポートモードのオン状態で大当たりと判定された場合には大当たりと判定されたかサポートモードをオフ状態に設定すると判定されたかを遊技者に報知するための特定の演出内容で図柄遊技の映像を演出し、サポートモードをオフ状態に設定すると判定された場合には同特定の演出内容で図柄遊技の映像を演出する。図3の表示制御回路80は図柄遊技手段に相当し、図28の(f)のリーチ映像5は特定の演出内容に相当する。

〔8〕大当たり遊技手段は大当たりと判定された場合に図柄遊技の映像が表示停止された後に特別入球口を開放状態とする大当たり遊技を開始するものであり、図19のステップS177は大当たり遊技手段に相当する。

〔9〕サポートモードオフ手段はサポートモードをオフ状態に設定するものである。このサポートモードオフ手段はサポートモードのオン状態で大当たりと判定された場合には図柄

遊技の映像が表示開始される前から表示停止された後までの間の大当り遊技が開始されていない予め決められたタイミングでサポートモードをオフ状態に設定するものであり、サポートモードのオン状態でサポートモードをオフ状態に設定すると判定された場合には大当りと判定された場合と同一のタイミングでサポートモードをオフ状態に設定する。図19のステップS169および図30のステップS304のそれぞれはサポートモードオフ手段に相当する。